

読本内容のパターン案

パターン1 「生きものと子どもの対話」を通じて、読み手に気付きを与える。

(1) 生きもの

- ・鳥（コウノトリなど・・・森林、里地、河川から海岸沿いにかけて出現）
- ・魚（サケ、ウナギなど・・・海から河川を通じ里地や森林へ移動）

(2) ストーリー

- ①生きものと子どもの出会い
- ②生きものの背中に乗り、森、里、川、海の各場面を旅して、
以下の3つの視点から様々なことを子どもに実感してもらう

*記述の視点

→森里川海のつながりの理想型と現状の対比

例：過去と現状の対比 過去の姿だけを見せて現状との対比は子ども自身に委ねる方法もありか・・・

→避けては通れない自然の厳しさと人間の対応

例：洪水・高潮（堤防）、干ばつ（ため池）、土砂崩れ（土留め）・・・

→人による自然への働きかけの歴史

例：信仰、生業／産業（特に農林水産業）、交通・・・

- ③旅の体験をもとに理想の森里川海で遊んでいる（暮らしている）自分を想像し、何が楽しいか（大切か）を考える。

パターン2 「二人の子どもの対話」を通じて、読み手に気付きを与える。

A 案

(1) 二人の子どもの特徴

自然との接点が少ない都会の子どもといつも自然の中で遊んでいる田舎の子ども

(2) ストーリー

- ①二人の子どもの出会い
- ②都会の子どもが田舎の子どもに誘われて森里川海で様々な体験（遊び、味わい etc）をする。
- ③田舎の子がおじいちゃんから聞いた昔の森里川海の話をし、都会の暮らしが森里川海に支えられていることに気付く。

B 案

(1) 二人の子どもの特徴

一人は現代っ子、もう一人は自然のことをよく知っているおじいちゃんの化身

(2) ストーリー

- ①二人の子どもの出会い
- ②現代っ子がおじいちゃんの化身に誘われて森里川海で様々な体験（遊び、味わい etc）をする。
- ③現代っ子がおじいちゃんの化身から昔の森里川海の話聞き、都会の暮らしが森里川海に支えられていたことに気付く。

パターン3 図鑑形式で森里川海の面白い話を掲載し、読み手の関心を高める。

- ①森里川海各場面で、子どもの関心を引きそうな遊び、生きもの、事象、昔話 etc に関する話を掲載する。記述の視点はパターン1「記述の視点」に準じる。各話のテーマは次頁のコラムネタ等から選定。
- ②森里川海それぞれがつながっていることによる恩恵を日常の暮らしとの関係において解説する。
- ③それぞれの話ごとに、できるだけ多くの写真やイラストを用いる。

パターン1、2共通 コラムについて

- ・子どもの関心を引くタイトルを冠したコラムを要所要所に掲載し、写真、イラストなどを用いて少し専門的な話を紹介する。以下はコラムネタの例

●森

日本の森林の特徴

森が水を育む話

森がミネラルを送り出す話

森と人がつながっていた話

森林管理の課題

食害の拡大

土砂災害の拡大

花粉症

●里

植林と雑木林の話

萌芽更新・木炭

適材適所の具体例（用材）

放置竹林問題

荒れた雑木林が野生動物の格好の住処

塩木（塩作りに使う薪）と山林管理

担い手不足と食害に悩む農家たち

単一品目の大量栽培

旬がない（化石燃料による栽培）

田舎の方が美味しいものを食べている

圃場整備

昔の稲作と今の稲作（水管理）

浅草の農民が水源にお参りに行く

●川

日本にはたくさんの川がある

淡水漁業

川遊びの禁止

川と暮らしと海運

飛び込みとガサガサ

プールより川が好き

アユをトラックで遡上

川の三面張りと堰堤

田んぼが漁場

水郷地帯に鰻屋の多い話

●海

森は海の恋人

干潟で小遣いを稼いだ子どもたち

河口・干潟の豊かな生態系

ウナギの生態と資源の問題

海洋汚染（マイクロプラスチック）

海ゴミ（漂着ゴミ）

富栄養化と赤潮

堤防・波消ブロック

●森里川海（全般）

森里川海の豊かな恵み

様々な機能と役割・生態系サービス

国土開発の時代

日本の公害について

外来生物の繁殖

●様々な自然体験、自然遊び

森で

里で

川で

海で